

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立ゆいの杜小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 146人 算数 146人 理科 146人

第5学年 国語 130人 算数 130人 理科 130人

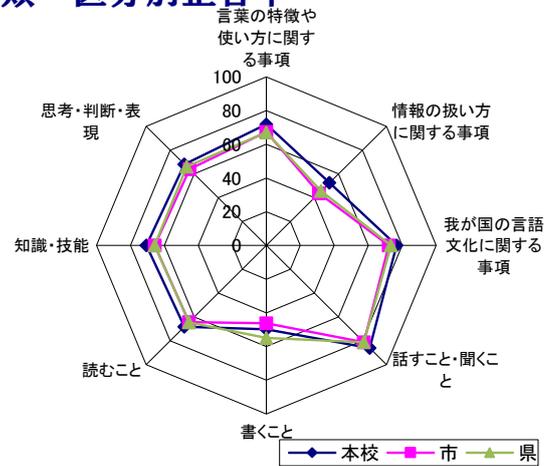
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.9	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	52.7	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	76.7	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	86.1	81.2	81.2
	書くこと	49.7	46.2	54.9
	読むこと	68.2	64.3	64.5
観点	知識・技能	70.6	65.7	65.7
	思考・判断・表現	68.1	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

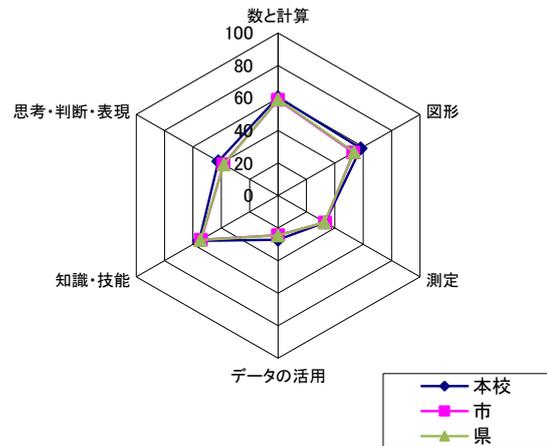
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は71.9%で、県の平均を4.8ポイント上回っている。 ○漢字を正しく読んだり書いたりする問題では、ほとんどの問題で県の平均を上回っている。 ●文中の主語と述語の関係を捉えることに、課題がみられる。	・主語が何かを意識して、文を読んだり書いたりする活動を取り入れ、文の組み立てについて、理解を深めていけるよう指導する。 ・今後も漢字50問テストやミニテストを定期的実施し、繰り返し練習することで、知識の定着を図っていききたい。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は52.7%で、県の平均を7ポイント上回っている。 ○国語辞典の使い方に関する問題では、県の平均を7ポイント上回っている。	・引き続き、授業の中で辞書の使い方を理解させるとともに、辞書引き学習を積極的に取り入れ、使用する機会を増やすことにより、さらに、国語辞典の使い方を定着させるようにしていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は76.7%で、県の平均を3.3ポイント上回っている。 ○漢字のへんやつくりの構成の理解に関する問題では、県の平均を上回っている。	・引き続き、漢字の学習において、漢字のへんやつくりなどの部首に着目させ、組み立ての理解を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は86.1%で、県の平均を4.9ポイント上回っている。 ○話し方の工夫を選択する問題では、県の平均を8.6ポイント上回っている。	・相手の伝えたい内容や、話の中心を捉えて聞く練習を継続し、聞く力を高めるよう指導していく。また、今後も、授業での発表や話し合い活動などで、理由を挙げながら自分の考えを伝える活動を取り入れていきたい。
書くこと	平均正答率は49.7%で、県の平均を5.2ポイント下回っている。 ●特に、指定された長さで文章を書く問題、自分の考えを明確にして文章を書く問題では、県の平均を6ポイント下回っている。	・指定された長さや条件に合わせて、構造的に正しい文章が書けるように、作文学習などを通して、文章を書く力の定着を図る。
読むこと	平均正答率は68.2%で、県の平均を3.7ポイント上回っている。 ○場面の様子について、叙述を基に捉える問題では、県の平均を8.4ポイント上回っている。 ●叙述を基に指示語の内容を捉える問題では、県の平均を7.7ポイント下回っている。	・読書活動を継続的にを行い、さらに、文章を読むことに親しませていきたい。 ・授業の中で、文章の構成を捉えたり、指示語について確認したりする活動を、継続していきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.6	58.9	59.2
	図形	58.2	53.0	53.7
	測定	33.1	33.1	32.6
	データの活用	27.2	24.4	24.6
観点	知識・技能	55.7	54.3	54.7
	思考・判断・表現	42.0	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

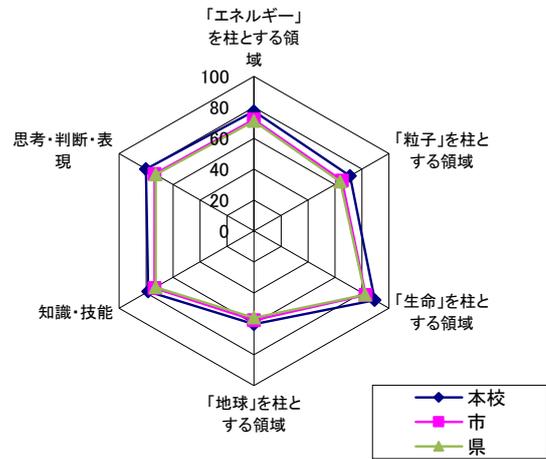
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は60.6%で、県の平均を1.4ポイント上回っている。</p> <p>○大きな数の表し方をよく理解し、県の平均を15.8ポイント上回っている。</p> <p>●分数や小数についての理解と、引き算の計算に課題が見られる。特に、整数－小数の計算は、県の平均を9.1ポイント下回っている。</p>	<p>・小数と整数の関係を捉えることができるように、数の相対的な大きさを使って問題を解いたり、説明したりする活動を取り入れる。</p> <p>・繰り下がりのある筆算について、繰り下がりの数字を書くなど、丁寧に計算するように指導する。</p>
図形	<p>平均正答率は58.2%で、県の平均を4.5ポイント上回っている。</p> <p>○球の性質を利用する問題と、二等辺三角形の性質についての問題は、県の平均を大きく上回っている。</p> <p>●コンパスを使った正三角形の作図の問題では、県の平均を3ポイント下回っている。</p>	<p>・円と球についての学習では、円の直径と半径の関係を考えさせたり、説明させたりするなど、今後も継続して問題に取り組ませていく。</p> <p>・コンパスを使った作図の学習では、手順を正しく理解させ、正確に作図できるように指導していく。</p>
測定	<p>平均正答率は33.1%で、県の平均を0.5ポイント上回っている。</p> <p>○道のりの差を求める問題では、県の平均を13ポイント上回っている。</p> <p>●時間や重さを求める問題では、県の平均を下回っている。特に、はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題では、県の平均を5.8ポイント下回っている。</p>	<p>・重さの問題では、はかりの目盛りを正しく読み取ることができるよう、1目盛りが表す大きさの見極め方の確認をし、定着を図る。</p> <p>・時間の問題では、線分図を使って、時間を長さとして把握し、計算で時間を求める方法を再確認する。また、今後も継続して類似した課題を行い、指導していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は27.2%で、県の平均を2.6ポイント上回っている。</p> <p>○2つの棒グラフを比べる問題では、県の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>●示されたテーマについて適切なグラフを選び、そのわけを説明する問題では、県の平均を上回ってはいるが、正答率は低い。</p>	<p>・棒グラフの学習では、1目盛りの大きさの違う複数の棒グラフを提示したり、目的の違いによるグラフや表の選び方などを考えたりする活動を行う。</p> <p>・様々な表し方があることを理解した上で、生活や他の学習などで、活用できるよう指導していく。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	77.5	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	71.2	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	89.5	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	60.3	57.7	56.2
観点	知識・技能	78.5	73.8	72.8
	思考・判断・表現	80.1	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は77.5%で、県の平均を6.5ポイント上回っている。</p> <p>○日光を集めたときの明るさとあたたかさについての問題では、県の平均を10.8ポイント上回っている。</p> <p>●実験結果から回路の見えない部分について推測する問題では、県の平均を0.3ポイント下回っている。</p>	<p>・電気の回路について、基礎・基本的な知識・技能は身に付いているが、実験結果から読み取ったり推測したりする問題では正答率があまり高くなかった。実験結果から考える場面を設けて、課題を解決させるよう指導していきたい。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は71.2%で、県の平均を7.3ポイント上回っている。</p> <p>○形と重さの関係についての理解をみる問題では、県の平均を7.8ポイント上回っている。</p> <p>●体積が同じでも、ものの種類によって重さがちがうことについて、表と関連付けて考える問題では、県の平均を6.9ポイント上回っているが、正答率は低い。</p>	<p>・問題文の趣旨をよく理解させたり、資料と関連付けて考えさせたりする場面を繰り返し設定していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は89.5%で、県の平均を7.1ポイント上回っている。</p> <p>○ダンゴムシが昆虫のなかまではない理由を説明する問題では、県の平均を16.3ポイント上回っている。</p> <p>●虫眼鏡の使い方について、県の平均を上回っているが、理解が不十分である。</p>	<p>・身近な自然についての理解が高いので、今後も自然に親しむ機会を設定していく。</p> <p>・観察器具の使い方について、用具を正しく操作できるように、観察・実験の機会を増やし、理解が深まるよう支援する。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は60.3%で、県の平均を4.1ポイント上回っている。</p> <p>○かげが太陽の反対側にあることを理解し、かげふみの動きと結びつけて考える問題では、県の平均を10.5ポイント上回っている。</p> <p>●方位磁針の正しい使い方が身に付いているかをみる問題では、県の平均は上回っているが、正答率は低い。</p>	<p>・今後も実験器具の使い方を指導するとともに、実際に使用する場面を多く設けていく。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、朝食を食べている」の肯定的割合が98%となっている。また、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心掛けている」の肯定的割合が、それぞれ県の平均を上回っており、基本的な生活習慣が身に付いていることが伺える。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「自分もっている能力を十分に発揮したい」「将来の夢や目標をもっている」の肯定的割合が全て県の平均を上回っており、児童が自分自身のことを認め、将来に向けて明るい展望をもっていることが伺える。

○「家の人と学校での出来事について話をしている」「家の人は、あなたがほめてもらいたことをほめてくれる」の肯定的割合が全て県の平均を上回っており、児童と家庭との良好な関係が伺える。

○「次の教科の授業の内容はよくわかりますか。」の肯定的割合は、ほとんどの教科において県の平均を上回っており、児童が学習面において理解を深めていることが分かる。

●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的割合が、県の平均をやや下回っており、自分の力で問題解決をしようと取り組む意欲が低いことが伺える。授業で基礎・基本の定着を図り、児童の挑戦心や探究心を喚起したい。

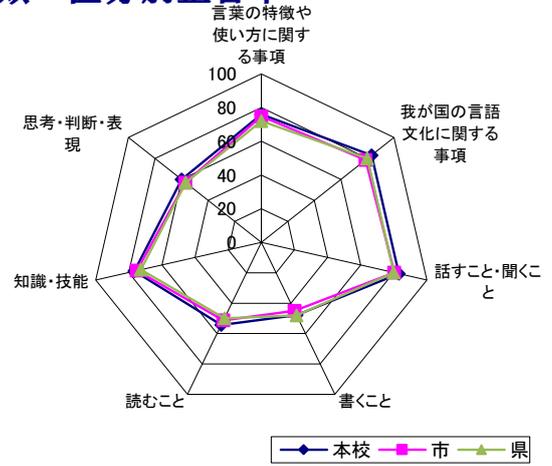
●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の肯定的割合が、県の平均を下回っている。今後は、様々な場面で話し合い活動を取り入れることで、児童の習熟を深め、意欲を高めていきたい。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的割合が県の平均を下回っている。日頃から児童との関係性を大切に、質問しやすい学級環境を構築する。また、疑問点をそのままにせず解決しようとする雰囲気づくりに努めたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.0	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	83.1	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	83.1	80.4	80.0
	書くこと	47.9	45.1	48.0
	読むこと	54.3	51.3	50.0
観点	知識・技能	76.6	75.2	72.8
	思考・判断・表現	59.9	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

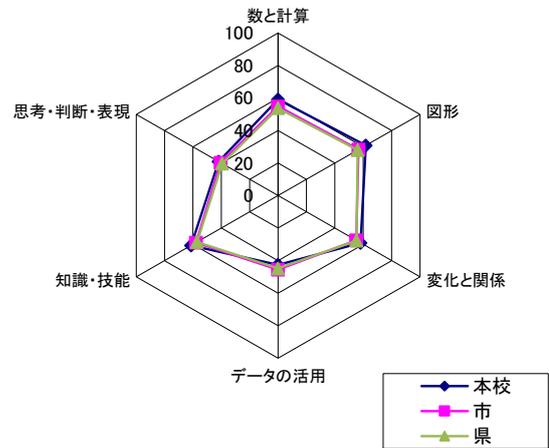
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は76%で、県の平均を4ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きについての問題では、正答率が高く、県の平均を上回っている。 ●連体修飾語の理解に関する問題では、県の平均を2.6ポイント下回っている。	・文の中における主語と述語、修飾語と被修飾語など、文の組み立てが着実に理解できるよう、文法に関する問題や作文の課題に取り組む機会を増やす。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は83.1%で、県の平均を3.2ポイント上回っている。 ○慣用句に関する問題は、県の平均を上回っている。	・引き続き、ことわざや慣用句、故事成語について意味を理解するだけでなく、日常の出来事とつなげたり、引用して書いたりする経験を積み重ねていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は83.1%で、県の平均を3.1ポイント上回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、県の平均を3.6ポイント上回っている。 ●発言をもとに、考えをまとめて書く問題では、県の平均を上回っているが、正答率は低い。	・国語だけでなく、他教科での話し合いの場や日常生活においても、相手の意見を聞いて、内容を正確に理解できるように、聞く態度を育成したり、メモをとる機会を設けたりしていきたい。
書くこと	平均正答率は47.9%で、県の平均を0.1ポイント下回っている。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題では、県の平均を3.9ポイント上回っている。 ●アンケート結果を読み取り自分の考えを書く問題では、県の平均を下回っており、条件を満たさずに正答できなかった児童が多い。	・段落の役割や文の構成、要旨、原稿用紙の使い方に注目して文を書くことができるように、適宜ポイントをまとめて学習する場面を設ける。
読むこと	平均正答率は54.3%で、県の平均を4.3ポイント上回っている。 ○物語文を読み取る問題では、県の平均を上回っている。 ●説明文を読み、叙述を基に文章の内容を捉える問題では、県の平均を上回っているが正答率は低い。	・説明文の学習において、文中の言葉を根拠として、事実・意見から文章の内容を捉えることができるよう指導する。また、叙述を基に、段落相互の関係を捉える学習を取り入れる。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.1	54.9	53.7
	図形	61.8	56.6	56.1
	変化と関係	58.1	55.1	55.2
	データの活用	42.6	45.5	44.8
観点	知識・技能	61.4	57.8	57.2
	思考・判断・表現	42.0	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

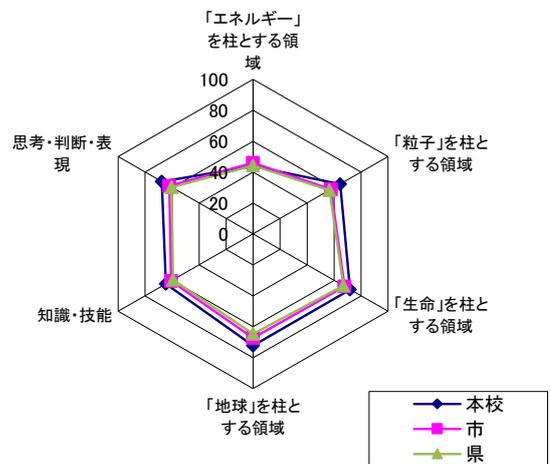
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は59.1%で、県の平均を5.4ポイント上回っている。</p> <p>○少数のしくみの理解についての問題では、県の平均を11.9ポイント上回っている。</p> <p>●数直線上の目盛りが示す分数を仮分数で表す問題は、県の平均を4.9ポイント下回っている。</p>	<p>・仮分数という条件を読まずに帯分数で答えている誤答が多かったため、日頃より一問一問問題をよく読み取りながら練習に取り組むようにしていく。</p> <p>・文章問題を解く機会を増やし、解法を説明させるなど、読解力の向上を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は61.8%で、県の平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p>○立方体の展開図を選ぶ問題は、県の平均を9.6ポイント上回っている。</p> <p>●180度より大きい角の大きさを求める問題は、県の平均を上回ったが、正答率が低い。</p>	<p>・180度より大きい角の大きさの求め方の学習では、分度器を使って角度を測る方法と、角度を計算から求める方法について、練習問題に取り組みながら理解を図る。また、普段の学校生活において、算数的思考を促す活動を実践し、問題に応用する力を高めたい。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は58.1%で、県の平均を2.9ポイント上回っている。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、県の平均を8ポイント上回っている。</p> <p>●割合を使った比べ方について説明する問題では、県の平均を3.2ポイント下回っている。</p>	<p>・割合を使った比べ方について説明する問題では、7割以上の児童が正答できていない。説明する力を高めるために、解答の理由を説明する場面を増やしていく。また、得た知識を日常生活に応用することができるよう、日常に近い課題を設定していきたい。</p>
データの活用	<p>平均正答率は42.6%で、県の平均を2.2ポイント下回っている。</p> <p>○グラフから読み取れることとして正しいことを選ぶ問題では、県の平均を1.2ポイント上回っている。</p> <p>●表から分かることとして正しいものを選ぶ問題では、県の平均を10ポイント下回っている。</p>	<p>・表やグラフのデータを正しく読み、分析的に扱う授業を行い、自分の考えや意見を記述する学習を増やす。</p> <p>・普段の学習に文章問題を解く機会を増やし、読解力の向上を図る。</p> <p>・問題が進むにつれて無回答の割合が増えていくことから、全体を見通し、時間配分を考えて問題を解く練習を行っていきたい。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	43.9	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	64.5	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	71.9	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	72.2	67.2	64.6
観点	知識・技能	64.7	60.8	59.2
	思考・判断・表現	67.7	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は43.9%で、県の平均を0.4ポイント下回っている。</p> <p>○並列つなぎの回路に流れる電流の大きさに関する問題は、県の平均を6.4ポイント上回っている。</p> <p>●簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ方から分かることを答える問題は、県の平均を6.3ポイント下回っている。</p>	<p>・簡易検流計などの実験器具をグループだけではなく、個人で使う機会を設け、器具を操作する場面を増やす。また、器具の使い方について、繰り返し復習し、理解が深まるよう支援したい。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は64.5%で、県の平均を7.9ポイント上回っている。</p> <p>○金属と空気をあたためたときの体積の変化を比較する問題では、県の平均を14.5ポイント上回っている。</p> <p>●とじ込めた空気と水の性質を身近な出来事と関連付けることができるかどうかを問う問題では、県の平均を3.1ポイント下回っている。</p>	<p>・空気鉄砲や身近な食品の容器(ジャムやマヨネーズなど)を例として説明するなど、生活の中で関連して考えることができるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は71.9%で、県の平均を、5ポイント上回っている。</p> <p>○夏の植物の成長に関する問題では、県の平均を7.2ポイント上回っている。</p> <p>●季節ごとの動物の活動についての理解を問う問題では、県の平均を2.1ポイント下回っている。</p>	<p>・自然に親しむ機会や、日常生活に関連させた説明を増やしていくことで、季節ごとの動物の活動に関する理解を深めていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は72.2%で、県の平均を7.6ポイント上回っている。</p> <p>○蒸発について理解しているかどうかを問う問題では、県の平均を11.6ポイント上回っている。</p> <p>●星の動きと星座の並び方についての理解を問う問題では、県の平均を1ポイント上回っているが、市の平均を1ポイント下回っている。</p>	<p>・星の学習について、タブレットを使って変化の様子を見たり、関連する動画を教師側が提示したりするなど、実際の動きを視覚的に捉えることで、理解を深めたい。</p>

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的割合が、県の平均を上回っている。家庭学習が習慣化していることや、家庭学習に意欲的に取り組んでいることが伺える。今後も、継続的に行うことができるよう支援していきたい。

○「家の人と学習について話をしている」の肯定的割合が86.7%で、市・県より上回っている。保護者の学習に対する関心が高いことが伺える。

○「毎日、朝食を食べている」の肯定的割合が96.9%となっている。また、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の肯定的割合が、県の平均を上回っており、基本的な生活習慣が身につけていることが伺える。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的割合が73.3%で、県の平均を下回っていることから、聞きやすい雰囲気を作るとともに、間違いを恐れない姿勢をもつよう普段から喚起していきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」及び「クラスの友達の間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的割合が、県の平均を下回っている。互いに意見を交流することの面白さを味わうことで、話し合い活動への意欲が高まるよう、国語の時間を中心に、指導の仕方を工夫していきたい。

●「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦している」及び「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的割合が、県の平均より下回っている。これからも、学校全体で児童を認め励ます教育を推進し、友達のよさを伝え合う活動を実施して、自尊感情の育成に努めていきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、振り返りを確実にするための工夫	・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」などの掲示カードを各教室の黒板に準備し、どの授業でも活用できるようにしている。 ・「板書見せ合いの日」を設定し、互いに見せ合い、参考にする機会を設けている。	・「授業の中で、目標がしめされている」の設問で、肯定的回答した児童が、どちらの学年でも90%を超え、県の平均を上回っている。 ・「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の設問で、肯定的回答した児童が、5年生は県の平均を上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・学年内で宿題の量や家庭学習の仕方を示す。自主学習の内容や方法を示し、よい実践のものをクラスに紹介する。 ・互いの自主学習ノートを見せ合う機会を設けることで、今後の学習の参考になるようにする。	・「家で学校の宿題をしている」の設問で、肯定的回答した児童が、どちらの学年でも95%を超え、市や県の平均を上回っている。 ・「家で、宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の設問で肯定的回答した児童が、どちらの学年でも県の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「クラスの友達の間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問で4年生、5年生ともに、県の平均を下回った。	・学習において有効な場面で話し合い活動を取り入れる。	・授業の展開、発問の精選、話し合いの形態などを工夫しながら、話し合い活動を設定する。互いに意見を交流し、理解を深める面白さを味わうことで、話し合い活動への意欲を高めていきたい。